

### Merry Christmas

\*\*\*

クリスマスが近づいて、キガリ市内の中心街やマーケットにクリスマスツリーやサンタクロースが目立つようになりました。私は今年も、リリマで受益者の人たち及び子供たちと一緒に、イエス様の御降誕を祝うことにしています。

\*\*\*

去る 12 月 16 日、ジェロームが退院しました。広範囲な熱傷ではありましたが、合併症も無く見事な回復ぶりで関係者一同喜んでいきます。お祈りに心より感謝申し上げます。

バレンティンの出産とジェロームの入院によって、ルワンダの医療事情の一端を知ることになりました。

ジェロームは、3 日（土）の午後 8 時頃、熱傷を負い、その直後ヘルスセンターへ行き治療を受けます。そして 2 日後、再度ヘルスセンターを受診し、そこで病院へ転院するよう勧められ、翌 6 日、街の病院へ転院します。そして、大部屋へ入って一晩を過ごし、その翌日個室へ移りました。

なぜなら、重篤の AIDS 患者と同室であったため、医師より感染の可能性があります、キガリの病院へ転院するように勧められましたが、キガリまでは遠く、有料の個室へ入ることを選択しました。個室の一日の使用料は約千円、保険の適応外です。

ルワンダでは加入している健康保険の種類によりカバーされるものが異なり、患者側の負担に違いがあります。ジェロームが加入している保険は、最低レベルのもので、診察代は無料ですが、検査や処方された薬などは全額、負担しなければなりません。今回の場合、抗生物質などの薬品、ガーゼ交換の際に使う特殊なガーゼ、点滴の薬液及び注射針、看護師が使う使い捨てのゴム手袋に至るまで、患者側が購入し準備します。しかしながら、日本で言う「医師の診察・技術料、看護師による看護・技術料」などは請求されません。

バレンティンの出産の際も同様でしたが、入院してもシーツや毛布はなく、患者側が準備します。下記の写真には、白いシーツがありますが、これは退院直前、病院から借用したもので、それまでは自前のものでした。

バレンティンの出産の際にも言及しましたが、病院でも患者への給食はありません。そのため食事は、カウンセラーとスタッフの女性が交替で、3食を毎日、病院へ運びました。

以上より、幾つかのことが判明しました。

一つには、私たちが支援する受益者や他の貧しい人たちは、適切な治療を受けられない、ということです。今回の治療及びこれに関する費用の概算は、1万3千円余りです。日本円にすると、2週間余りの治療費にしては安価ですが、ルワンダでは高額です。この金額は、私たちのスタッフ・デボタの給与1か月分の1.5倍に相当します。(デボタは、小学校教師の夫と息子ひとりの3人家族、持ち家は大きく、貧困家庭ではありません。) ですから、アタナジィをはじめとする貧しい人たちでは、到底このレベルの治療を受けることはできません。仮に、ジェロームの受傷が私たちの支援を受ける以前であれば、治療が受けられず背中半分と左腕の3分の2は、傷跡を残したことでしょう。

次は、ジェロームの栄養状態が良かった、と言えます。広範囲の熱傷で心配したことの一つが、栄養状態の不良のため傷の治りが遅れることでした。しかしながら、これは懸念に終わりました。私たちがアタナジィ一家の支援を始めて1年9か月になります。支援の食費は、家族8人が食べられる最小限の額で肉や卵など動物性の蛋白質は食べられません。それでも子供たちの栄養状態は改善し体格も向上しました。極度の貧困家庭で育った子供たちの栄養状態を改善するには、少なくとも1年の期間が必要だろうと考えます。ですから、1年以上前に受傷したのであればジェロームの回復は、このように順調ではなかったと思います。

そして、もう一つ、スタッフの女性の二人が良く働きました。毎日、3食、公共の乗り合いバスを使って病院へ運ぶことは容易ではありませんが、彼女たちは親身になってやりました。二人に、食事代を支払おうとすると「これは、私たちの義務です。お金はいりません。」と言って受け取りませんでした。13歳で家族を失ったアタナジィは、孤児となって以来22年間、これほど親身になってくれた人は周囲にいなかったと思います。このことは、アタナジィの心に強く響いたようです。愛すること、愛を表現することは、私たちの働きに不可欠であり、このことを銘記し、繰り返し自身に言い聞かせる必要があります。

ジェロームの熱傷は、神さまの守りと導きと祝福でした。主を讃美しつつ、多大な感謝を捧げます。そして、皆様のご支援に感謝とお礼を申し上げます。私たちの働きは小さく、多くの貧しい人を支援することはできませんが、少なくとも傷を負ったジェロームを助けることは出来ました。ジェローム、アタナ

ジー家、及びスタッフたちに代わってお礼を申し上げます。

どうぞ豊かなクリスマスをお迎えください。主の祝福を祈りつつ。

在 主

2016年12月22日



入院中のジェローム（受傷後13日目）とアタナジィ